

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	西巣鴨・学びの保育園
活動日時	令和6年 3月 27 日(木)
クラス名(年齢)	5 歳児
年間テーマ	自然

1. 活動テーマ

<テーマ>

拡大してみよう

<テーマ設定理由(子どもの姿)>

以前稲から玄米を取り出した時に、「チクチクする」という声があり顕微鏡を使ってもみ殻をみていることになった。

2. 活動スケジュール

顕微鏡の使い方を知ってから、実際にもみ殻を拡大して見てみる。
大きく映したことで気づきが生まれ、「もっと見てみたい」という思いが生まれれば、見たいものを探してやってみる。

3. 環境をデザインする(活動のために準備した素材や道具、環境設定)

・顕微鏡 ・拡大鏡 ・モニター ・タブレット
・もみ殻 ・玄米 ・サンプルボトル(人数分)

4. 探求活動の実践

<活動内容>

チクチクしたという玄米を顕微鏡でみたことで、もみに無数のとげがあることに気付く。何のためにあるのかを考え、予想を立てる。
また、顕微鏡の面白さに気付き見たいものを探しに行く。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの声・姿	写真
拡大鏡でもみを見てから顕微鏡でさらに拡大したもみを見て 「うわ、おっきー！」 「毛が生えてる!」「つみたい!」 「これでチクチクしてたんだ」と気づく。 なんのためのちくちくなんだろうね、と投げかけると、 「こっちのほうが虫みたいだから?」 「このチクチクで虫や動物に食べられないように守っているのかも」と子ども達から考えが出てくる。 他にも見たいものがあったらケースに入れて持ってきていいよと伝える。 「外で探したい」との声で玄関下へ行き石や草花を持ち帰って観察。 「石だけキラキラの部分がある!」 「宝石かもしれない」と予測を立てて楽しむ姿ある。	

5. 振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

顕微鏡や拡大鏡の「大きく映る」面白さから始まり、徐々に使い方を知っていくと「じゃあ他の物ならどうだろう」「この部分ってなんでだろう」という「疑問や不思議に思う」面白さ・気持ちが少しずつ芽生えたので、「なんでだろう」「こうしたらどうだろう」と思い立った時にすぐに使用できることが、子どもの意欲や関心を伸ばすきっかけになると感じた。